



圭山守

常れさし一仰々々々白一
 け一は、濁りの出朱て甚の水
 紫けきく牛の眠ぬ櫻うけ
 鶯の子を育てるや甚の子
 茶碗溢るるくろり一も董
 獅子舞の意者おむ甚日お
 を備てたまき茶のむの小里を
 甚あふ百も甚やく志甚の松
 青柳のえゆる大石小頭う那
 口けて中儀のさ一や吟哇
 浦島の正名やさん甚の月
 中夜も甚余を弱るや夜う那
 ちろく浪者絶て夕夜
 落片まのよれ夜や甚の山
 白魚のえゆる延る日柳う那
 入りしろうま松の明果る甚葉お
 入目ふあソ川をさるるを柳のむ
 防ぎお抱てんて居るお戸う那
 二亭に中ゆる山の雉子う那
 甚の雪をさいうあおむ甚ハせる
 大原ハ雪のさうて帰る丁
 甚風も濁つて居る松の中
 疎くの人連てけ言居る那
 松風も甚の夜とまうたうに理
 ち以ふ梅枝蒼むらあるか一

芸 隱 魚 佛 桂 舟 春 柳 葵 吟 可 景 益 女 香 雲 天 朗 万 水 梅 井 潜 丸 董 洞 李 枝 女 榎 人 雪 香 北 明 碧 山 扇 那 窓 韻 鶯 別 子 言 月 郷 應 蓉 几 山

いまももさめね
 此のたまりもの疎

蝸堂

亥春

越芝田 子日菴連



美少郎古世男

越後田
子日尾連

